

人口増加に伴う自給率向上や農業生産性向上は国を挙げての重要課題。野菜・花卉や穀物を栽培する近代的農家は購買力があり日本企業の顧客となりうる。世界の農業化学や農機大手はケニアを重要拠点と見ている

農業資材

輸出農家や大規模農家向けから発展。ケニアは東アフリカのハブ

総合

Amiran Kenya
英Balton CP子会社。種子、農業化学品、肥料、農機具などの農業インプットを総合的に販売。売上3,000万ドル

Elgon Kenya 総合農業資材販売会社2位。売上950万ドル

農薬

Twiga Chemical
Osho Chemical
Orbit Chemical

農薬 世界の農業化学メーカーが東アフリカ拠点をケニアに置き、種子や農薬を販売

・ **Syngenta**
BASF
Monsanto
Bayer
Pioneer/Dupont
Nufarm

種子

East African Seeds
種子専門トップで、周辺アフリカ各国にも販路。2019年南アZederが40%を取得

Kenya Seeds 半官半民の種子会社。主食であるメイズの種子の主要供給元。子会社Simlawは野菜種子に強い
Sakata Seeds サカタのタネの東アフリカ拠点。輸出農家向けに野菜F1種を販売

肥料

完成品の輸入かブレンド製造。三井物産と豊田通商が関与

肥料輸入

YARA East Africa
世界有数の肥料会社。30年前からケニア・東アフリカで肥料や農業資材を販売。肥料シェアトップ

肥料製造

ETG
輸入原料からブレンド肥料を製造し販売。近隣国へも輸出。2017年三井物産が30%を出資。肥料シェア2位

ケニア農産物別年間肥料使用量

| | 圃場規模 (ha) | 肥料施肥 面積 (ha) | 肥料使用量 (ton) |
|-------|-----------|--------------|-------------|
| メイズ | 2,272,213 | 1,617,877 | 287,223 |
| 紅茶 | 187,855 | 174,227 | 98,984 |
| 小麦 | 153,060 | 139,154 | 29,621 |
| 砂糖きび | 213,610 | N/A | 29,472 |
| 豆 | 1,171,710 | 347,100 | 24,138 |
| 加工用いも | 171,164 | 132,814 | 17,413 |
| 花卉 | 11,880 | 11,880 | 15,913 |
| ソルガム | 184,654 | 65,597 | 6,777 |
| 米 | 29,530 | 27,706 | 5,384 |

MEA Fertilizer
1977年創業のケニア老舗企業。メイズ種子中心にシェア高い。2019年Fertiplant社を設立しスチーム造粒技術を導入

Toyota Tsusho Fertilizer Africa
豊田通商が2015年設立。ケニア西部に建設した工場ブレンド肥料を製造し、穀物や野菜向けに販売

Maisha Mineral Fertilizer
メイズ肥料メーカー。セメント会社が発祥

農機

トラクターの年間販売台数は約1,500台。世界の農機メーカーが代理店を通じて、輸出農家や大規模農家の他、トラクターを時間や面積単位で貸し出す貸耕サービス目的で購入される顧客に販売している

CMC (New Holland)

トラクターシェア約4割、年間700台を販売。マツダ、スズキの自動車ディーラー

Panafrican Massey Fergusonを販売。約20%のシェアを占め2位

Tata Africa John Deereを販売。約10%のシェアを占め3位

CFAO・豊田通商 CASEを販売

Car & General クボタを販売
その他、中国農機や中古農機の輸入ブローカー、個人間売買が存在

輸出花卉・野菜

ブロッコリー、いんげん豆といった野菜がケニアから欧州各国のスーパーやHoreca産業に輸出されており、世界水準の栽培、集荷、物流・輸出を一気通貫に行う企業が存在する。コールドチェーンの構築が必須の花弁も欧州向けを中心に輸出されており輸出金額は世界4位。日本へも年間800万トンが輸出され、輸入バラの半分はケニア産とされる

野菜

Vegpro Kenya
輸出野菜トップ。自己圃場2,500haでの栽培から加工、輸出まで一貫で行う。契約農家3,000戸

AAA Growers 輸出野菜2位。花卉も栽培
Kenya Horticultural Exporters 輸出野菜3位
Flamingo 野菜と花卉を栽培
East African Growers 花卉も栽培
Frigoken 冷凍・加工野菜に強み
Sunripe 冷凍野菜に強み

花卉

BlackTulip
花卉輸出トップだったFinlayを2021年に買収。栽培圃場は100ヘクタールを超える

Bohemian Flowers
花卉輸出上位だったOcreianを、Vegproが2021年に買収して新会社設立

Unilever 20の茶園と8つの加工工場を持ち、ユニリーバの紅茶事業の主要産地。ただし同社は2021年紅茶事業をファンドに売却

Del Monte ケニアでパイナップルを栽培し、缶詰加工し輸出

穀物

ケニアの4大穀物である、主食のウガリをつくるメイズ（とうもろこし）粉、小麦粉、米、豆は、いずれも作物を大量に仕入れ大規模に加工する穀物パッカーが製造・販売を担っている。メイズは国内に大規模農家を抱える。メイズ粉と小麦粉はパッケージ製品が、米と豆は量り売りが主流。米は年間消費量70万トンのうち、15%にあたる11万トンが国産米で、残りは輸入されている

Pembe Flour Mills
Pembeはメイズ粉、小麦粉のトップブランド。特にパピママショップと呼ばれる伝統的小売店舗で支持が高い

Capwell
メイズ粉2位のSoko、米・豆ブランドPealなど複数の穀物上位ブランドを持つ。米は国内調達の割合が比較的高い

Mjengo
輸入米のパッケージ米製品であるDaawatでシェアトップ。パスタやスナックでも高いシェアを持つ

Unga Holdings
メイズ粉、小麦粉3位

Spice World
豆ブランドトップ

Krish 米ブランドSunriceでシェア2位
Grain industries 小麦粉ブランドAjajiでシェア2位
Kamili Packers 豆ブランド2位
West Kenya Sugar Company 砂糖トップブランドKabrasを販売。スーパー、伝統的小売ともに強い

農業資機材

栽培・販売

ビジネス概況とトレンド

農業はケニアのGDPの2割を占める重要産業。人口の5割が農業に従事するがその大半は自給自足に近い小規模農家で、経済的には花卉や野菜、コーヒー・紅茶といった輸出農業が牽引している。自給率の向上を目指し政府は穀物への補助金導入や肥料配布のためのeクーポンシステムなど農業生産性の向上に取り組んでいる

市場と顧客

農業インプットや農機の主要な買い手は輸出農家や穀物などの大規模農家。作物の販売先である欧州などが要求する品質水準にあわせるため、高品質なインプットへの需要がある。花卉農家ではM&Aが活発化しており、2021年は大手Finray、Ocerianが売却された。主食のひとつである米は2030年までの国内自給達成が目標とされているものの、消費71万トンのうち国内生産は11万トンに留まりパキスタン等からの輸入が中心

サプライチェーン

野菜・花卉などの輸出農家は自社圃場で生産する他、小規模農家を契約農家とし、種子や肥料の貸付、品質管理を提供した上で農作物を買い取っている。農業資材は大手農業資材商社から農村の農業小売店へと流通している

ビジネスチャンス

(1) 輸出農家・大規模農家向け農業資機材の販売

種子、農業化学品、灌漑、農機は、まずは花卉や野菜、紅茶・コーヒーといった輸出農家や穀物等の大規模農家が顧客になる。輸出農家を通じて小規模農家向けにこれらを提供することで、SDGsへの貢献も可能

(2) 米・稲作への関与

メイズ粉、小麦粉に続く第3の主食である米は、若者中心に需要が伸びており、将来的な消費量の増加は必須。国産米のほとんどを生産するMwea灌漑地域は農機などの販売可能性。大手精米所もこの地区に集まり米流通の起点となっている

(3) 農産物のケニアからの輸入

すでに日本に輸入されている紅茶・コーヒー、花卉に次いで、冷凍野菜や加工果物は日本の業務用食材として輸入がありえる

(4) 農家向けのモバイルサービス・スタートアップ

小規模農家に向けて農作業管理、収支・与信管理・融資提供、マーケットプレイス提供等を行うデジタル・モバイルサービスが数多く生まれている

関連省庁・団体

監督省庁:Ministry of Agriculture, Livestock, and Fisheries
穀物公社: National Cereals and Processing Board(NCPB)
研究機関:Kenya Agricultural and Livestock Research Organization (KALRO)
植物検疫所: Kenya Plant Health Inspectorate Service (KEPHIS)
種子:Seed Trade Association of Kenya (STAK)
農薬: Agrochemicals Association of Kenya (AAK)
肥料: The Fertilizer Association of Kenya(FAK)
野菜・花卉: Fresh Produce Exporters Association of Kenya (FPEAK)
花卉: Kenya Flower Council

(アフリカビジネスパートナーズ 2022年2月作成)

原料

化学基礎原料は国内製造されていない

合成樹脂 化学品

合成樹脂、化学繊維、その他化学品は国内製造されておらず輸入による調達。そのうち6割以上が中国からの輸入

多国籍企業

BASF East Africa 建設用、食品・日用化学品用、農業用などの化学品の輸入販売。ケニアにコンクリート混和材の工場を持つ

中小輸入商社

中国系、インド系の中小企業が多数存在

| ケニアの合成樹脂輸入相手国 (2019) | 重畳 (tons) 価格 (\$'000) | |
|----------------------|-----------------------|-------------|
| | 重畳 (tons) | 価格 (\$'000) |
| 中国 | 922 | 1,305 |
| インド | 661 | 632 |
| 英国 | 393 | 300 |
| オランダ | 73 | 142 |
| フランス | 26 | 161 |
| 合計 | 2,172 | 2,936 |

ポリマー
日本触媒
BASF

合成繊維
カネカ
デンカ

最終製品製造

日用化学品 (HPC)

石鹸、洗剤などのホームケア、ヘアケア、スキンケアなどのパーソナルケア製品を製造するメーカーが存在

Unilever Kenya

石鹸、洗剤、パーソナルケア製品をケニアで製造販売。伝統的小売への強い販路を持つ

Bidco Africa

石鹸、洗剤、食用油、食品、飲料と広く製造するケニア企業。ケニア売上5億ドル

Haco Industries

ヘアケア製品に強い。2017年まで南アのTiger Brandsが株主だったが売却

P&G ケニアで製造は行っていないが、広範な製品群で高いシェア

Beiersdorf スキンケアブランドのニベアを販売。一部をケニアで製造

L'Oréal East Africa ヘアケア、化粧品を製造販売

PZ Cussons EA 2020年石鹸ブランドをPwani Oilに売却

プラスチック・パッケージ

ペットボトル、食品等向けHDPE容器、フレキシブルパッケージ、フィルムなどが製造されている。消費財市場の成熟に伴い高度化が進みつつある

総合

KenPoly プラスチック最大手
SilAfrica プラスチック、パッケージとも製造。Bidcoが顧客

PET

Safepak ペットボトル専業
Genral Plastic ペットとHDPE容器両方を製造

HDPE

食品、ヨーグルト、日用品等ウェット製品向け容器を製造
Ashut HDPE最大手
General Plastic

食品

ドライ食品用のフレキシブルパッケージを製造

Polyflex
Polythene
Package Industries

フィルム

多重フィルムを製造し、容器メーカーに供給

Statpak
Platium Pack

塗料メーカー

建築用塗料が需要の中心。原料を輸入しケニアでブレンド。上位企業はケニアのみならず東アフリカで販売

Crown Paint

塗料シェアトップのナイロビ証券取引所上場企業。売上8,000万ドル

Basco Paint

シェア2位。DuraCoatブランドを展開

Kansai Plascon East Africa

2017年関西ペイントが東アフリカ売上8,700万ドルのSadolin Paintを買収。ケニアシェア3位。

接着剤・シーリング剤

Henkel ケニアに製造工場

H B Fuller ケニアに製造工場

3M 輸入販売

おむつ・生理用品

P&Gが輸入するPampersが長年シェアを保持してきたものの、国内製造するブランドや安価輸入ブランドの登場により競争環境は変化

P&G

おむつPampersと生理用品Alwaysでシェアトップ。エジプト工場から輸入し、代理店を通じて販売

Sunda

おむつSoftcareで伝統的小売中心に猛攻し市場獲得した中国企業。おむつシェア2位。ケニアに工場あり

Hayat Kimya Molfixブランドでシェア上位のトルコ企業。エジプト等から輸入販売

Kimbelry Clark Haggiesブランドでシェア上位。2021年11月ケニアでの製造開始を発表

ユニ・チャーム エジプト工場から輸入し代理店を通じて販売

Interconsumer、African Cotton 両社ともおむつや生理用品をケニアで製造するケニア企業

ヘア製品メーカー

ケニアの女性ほぼ全員が毎日使用するヘア製品(つけ毛)は、カネカなど化学メーカーが輸出する化学繊維を用いて現地工場が完成品に加工する。

Style Industry

インドGodrej傘下企業。アフリカのヘア製品トップブランドであるDarlingを製造販売

Sana Industries

ケニアシェア2位ブランドであるAngelsを製造販売。韓国系企業

美容小売チェーン
Best Lady
Super Cosmetics

ビジネス概況とトレンド

消費地立地型製造業であるケニアには、重化学工業は存在せず、化学原料は輸入で賄っている。一方で、消費者に近い製品の製造工場は多く、多国籍企業やケニア出自の大手企業も存在する

市場と顧客

日用化学品:スーパーのみならず伝統的小売でも頻度高く購入される大きな市場

パッケージ:日用化学品メーカーの他、食品や飲料向けに包装材を製造

塗料:東アフリカ全体で3.5億ドル、ケニアで1.5~2億ドルと推定される。建築用途の需要が大きく、自動車修理用途が続く

おむつ:おむつの使用率は全国ベースで推定20%、都市部では50%は超え、今後の成長率は年8.8%と推定されている

サプライチェーン

日用化学品:メーカーから伝統的小売までの流通経路は長く物流は非効率なため、効率化するためのスタートアップ・アプリが複数存在する

ヘア製品:メーカーからヘアサロン、末端小売店などに流通する他、近年登場した美容小売チェーンでも販売される

ビジネスチャンス

(1) 化学品原料の供給

ペットボトルプリフォームやマットレス原料、おむつの高分子吸収体、ヘア製品向け合成繊維はすでに日本から輸出されている。パッケージやヘア製品は高度化の余地が大きく、日本企業が持つ素材への需要がありえる。特にパッケージは高度化・多様化が進む過程にあり市場拡大に期待もてる

(2) 日用化学品 (HPC) 市場への参入

ホームケア、パーソナルケアへ人々が費やす金額は少なくなく、人口増に応じて成長が見込める市場。価格圧力は強いものの、この領域は日本企業がケニアの小売流通、消費財事業に参入する入り口となりうる。売上数億~数十億円規模のメーカーが多く存在。また、マスマーケット向けのみならず、コスメ、パフューム、スキンケアの高級ブランド市場も立ち上がりつつある。

(3) 建設、インフラ向け化学品の販売

建設向け、インフラ向け各種化学品には根強い安定的な需要がある。BASFもコンクリート混和剤についてはケニアで工場を保有している

関連省庁・団体

監督省庁:Ministry of Industrialization, Trade and Enterprise Development
試験・検査機関:Government Chemist Department
環境管理局:The National Environment Management Authority (NEMA)
品質認証機関 Kenya Bureau of Standards (KEBS)
製造業団体 Kenya Association of Manufacturers (KAM)

需要家

飲料

ビール、ソフトドリンクは工場から配送まで自動化が進められている有望市場。IoTの導入にも積極的。末端店舗での冷蔵設備導入も進んでいる
Coca Cola ケニアに4工場
PepsiCo ケニアに1工場
East African Breweries ビール最大手

バルク加工品

Pembe Flour Mills メイズ粉・小麦粉最大手
Bidco Africa 食用油、日用化学品大手
British American Tabaco たばこ
Bamburi Cement セメント大手

加工食品、日用化学品

Majengo 食品、菓子大手
Deepa industries スナック菓子大手
Haco Industries 日用化学品

肉・魚、乳製品、農産物

Farmer's Choice 精肉・水産加工大手
Brookside 乳業最大手。仏Dannonが株式40%を保有

電力、インフラ、公共事業

Kenya Power 送電・配電公社
Kenya Pipeline 石油貯蔵公社
TVET 職業訓練校

制御機器・FA

世界大手制御機器メーカーがケニアに拠点を持つ。コントロールボックス、PLC、センサー等をインフラ、電力、食品、バルク加工工場に販売

Siemens 制御機器ケニア最大手
Schneider Electric ケニアに拠点
ABB ケニアに拠点

International Energy Technik シーメンス、Phoenix Contact、東芝などを扱う制御装置の販売代理店

ユーティリティー

コンプレッサー、ポンプ、ジェネレーターといった動力源や空調を販売

Atlas Copco Eastern Africa コンプレッサー、空圧システム世界大手のケニア法人。飲料、乳業、HPCなどの工場に販売

Ingersoll rand コンプレッサー大手、代理店Car & Generalを通じ販売

North Star Cooling Systems 東芝やCarrierの業務用空調取り扱い

Flow Control SMC正規代理店。空圧制御部品の販売代理店

食品・日用品

菓子、スナック、マーガリン、缶詰といった加工食品や、清掃などホームケア製品やスキンケア製品は市場規模が大きく、製造するメーカーの規模も大きい。これら企業は生産効率や創業安定性を求め、ハイエンドの機械・機器への需要がある

バルク加工品

製粉、製糖、食用油、たばこ、セメントといった、大量の原料を単一方法で加工するバルク加工工程は、自動化が進みやすく、いくつかの多国籍大手が拠点を持つ

Buhler 独粉機大手
GEA 独製造機械大手

コールドチェーン

花卉や野菜の輸出を行ってきたケニアは比較的コールドチェーンが整備されている。10年ほど前から設備施工需要も増加。コンビニエンスストアやファストフードレストランの増加で業務用冷蔵庫の需要も膨らむ

Cold Solution East Africa ナイロビ近郊のTatu Cityに大型冷蔵倉庫・配送センターを建設中

設備・施工 コールドルームの施工を請け負う業者は大手で20社ほど存在する

North Star Cooling Systems
Accent cooling systems
Cool Plus

Big Cold 冷蔵物流業者。KFCや食品会社が顧客

Sanden Intercool コカ・コーラやサントリーの店内冷蔵庫を受注。タイの自社工場に製造

Uni industries 南ア業務用冷蔵庫Staycoldの販売代理店

ホシザキ インドで製造した業務用冷蔵庫を販売。ケニアに支店

搬送部品

飲料やセメント、粉類などのバルク加工工場、インフラ、建設向けにコンベヤ、チェーン、ベアリング、トランスミッションなどを販売するサプライヤーが存在する

East African Chain 椿本チエイン、Fannerの正規代理店

Oil Seals Bearings NTN、ジェイテクト、Timkenの販売代理店

B.D Engineers コンベヤ、チェーン、モーターなど取扱い

飲料向け

飲料はもっとも自動化・高度化が進む領域で、市場も大きい。世界の大手飲料ボトリング機械メーカーがケニアに拠点を置いて供給している

Sidel 仏ボトリング機械大手
KHS 独ボトリング機械大手
Krones 独ボトリング機械大手

包装

世界大手企業が大手メーカー向けに販売。中小では中国やインドからの輸入がさかん

インダ ドライ食品加工品向けに包装機械を販売。ケニアに支店

Tetra Pak 乳業向け紙包装世界大手

Fawema 紙パッケージ大手、ケニアにサービス拠点

Allwin 包装機械商社、中国から輸入した機械を取り揃える

日精工・**エス・ビー** ペットボトルブロー成形機等販売

機械部品メーカー

自動車や製造業、インフラ、建設などの産業向けに機械部品を製造するメーカーが存在する

Numerical Machining Complex

自動車や製造業、鉄道、電力向けに、ギアボックス、モーションなど産業部品を製造。ケニアのいすゞ自動車が顧客、DMG Moriの加工機を使用

Stealstone
East African Foundry workers
Techno Steal

多国籍企業向け

ユニリーバ、ロレアル、ネスレなどを始めとする多国籍企業は、世界共通の調達を行っており、機械・機器類も世界の機械・機器メーカーから調達。ただし調達は本社マターとなる

検査・計量

研究機関や病院、食品、農業などの品質検査に使用される。需要家が個別に輸入することが多い

Estec 分析計測機器販売代理店。島津製作所の正規代理店、コニカミノルタ、リガク等を取り扱う

F&S Scientific 化学計測器販売代理店

Statpack 検査機器、測定機器、包装機器商社

部品搬送ユーティリティ制御

製造

検査包装物流

ビジネス概況とトレンド

アフリカにおける製造業は、南アフリカ、エジプト、モロッコが3大国でケニアはその後に続く。ケニアの製造業は消費地立地型であり、原料、素材、中間財の製造は少なく市場も小さいことから、機械・機器はメーカーの直営や正規代理店による供給体制が整っておらず、需要家にとっては入手が困難な状態が続いている。制御・FA機器等の導入による生産性向上は、飲料、バルク加工品を製造する企業や多国籍・大手企業から進められており、工場から物流に至るIoT化やモニタリングも試行されている。製品や製造プロセスにおける環境イノベーションは世界と時差のないスピードで導入されつつある

市場と顧客・サプライチェーン

ケニアの機械類輸入額は推定年間15～18億ドル。ケニアに工場を持つ多国籍企業・大手企業は世界と同様の製品を直接購入するため、世界と同じプレイヤーによる競争が起こっている。大企業以外はケニア国内で購入できる選択肢が限られるため、日本を含む各国のメーカーから直接輸入を試みて悪銭苦闘しており、結果として販売姿勢が積極的な中国やインドの機械が使われることが多い

ビジネスチャンス

(1) 機械・機器全般-まずはディストリビューターの設定から

業界トップが多い日本企業の機械・機器に対しては、需要家側の認知もニーズも高いものの、現地に窓口がないことで需要を取りこぼしている。日本はケニアにおいて、質が高く、安定的に長く使える機械・機器を供給する機械・機器メーカーが多いの国として知られており、ジャパンプレミアムを活用できる可能性がある。まずは、輸出入と問い合わせの窓口になるディストリビューターを設定する

(2) 自動化・高度化、環境対応先行産業向けの販売とシステム提案

飲料、バルク加工品、加工食品、日用化学品などの機械化や自動化、ICタグ、IoT、倉庫・物流管理のシステム化等が進む製造業向けに、日本の機械・機器の販売やソリューションの提案を行う。工場電力の再生可能エネルギー化や脱プラスチック、リサイクル、廃棄物や排水の環境負荷削減といった分野も受け入れられる素地あり

(3) 電力、インフラ、公共事業の入札への参加

シーメンス、シュナイダーエレクトリック、ABBといった欧州の重電が入札に強いが日本の製品もピンポイントに調達されており、積極化の余地がある

関連省庁・団体

監督省庁:Ministry of Industrialization, Trade and Enterprise Development
 品質認証機関: Kenya Bureau of Standards (KEBS)
 製造業団体: Kenya Association of Manufacturers (KAM)